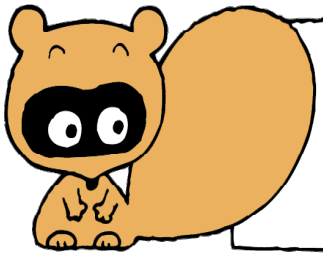
赤麻小だより

第10号

平成２６年　９月１７日
発行所：栃木市立赤麻小学校校長室

２学期がスタートして２週間、朝夕の涼しさが際立ってきました。日本には1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、それぞれをさらに6つに分けた24の期間「二十四節季」と、これをさらに初侯･次侯･末侯とにわけて、気象の動きや動植物の変化を知らせる七十二もの季節「七十二侯」があります。四季折々の季節をふとした瞬間に感じるのですが、秋は特に穏やかな心持ちになることが多々あります。９月８日は十五夜でしたが、「中秋の名月」には会うことはできたでしょうか。学校にはススキが届けられ、月見の雰囲気を少しだけ味わうことができました。職員室では「秋の七草」について話題となりました。万葉集では山上憶良が秋の七草を詠んでいます。



【秋の七草】　すすき　萩　撫子　葛
おみなえし　桔梗　藤袴

秋の野に咲きたる花を指(および)折り
かき数ふれば七種(ななくさ)の花
山上憶良(万葉集)

また、９月９日は重陽の節句でした。菊の節句で、長寿を祈るそうです。旧暦ではこの時期にちょうど菊の花盛りですが、新暦ではまだ菊の時期には早いようです。平安の時代には、宮中で菊を飾り、盃に菊の花びらを浮かべ酒を飲み、詩歌を詠み雅に過ごしたようです。収穫祭の意味もある行事でもあり、栗の節句と呼ばれ、栗ご飯で感謝を捧げ秋の実りを祝ったそうです。この日は二十四節季の一つ白露、さらに２３日は秋分となり秋は本格的に近づいているようです。

子どもたちの秋はすでに『赤麻大運動会』から始まっています。赤麻体育協会の皆様、地域の皆様、そしてＰＴＡ役員をはじめとする保護者や皆様にはお忙しいところ準備等でお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

【学校はいつも地域の皆様に思いを寄せていただいております】

左：十五夜に合わせていただいた、すすきやおみなえし等
右：いただいた爽やかな香りのジンジャーリリー

本校は、地域の方にいつも見守られ大切にされていると感じることが多くあります。

交通指導員の方や安全ボランティアの方は子どもたちの様子を気遣って、下校や遊びの様子をいろいろとお話しくださいます。学習ボランティアの皆様もたくさん学習支援に入ってくださいます。また、季節のお花やウサギの餌となるお野菜を届けてくださる方々がいらしたりと、皆様の思いは子どもの豊かな教育環境となっております。

あらゆる面での温かなご支援ご協力に改めて感謝いたします。ありがとうございます。

子どもたちの活動から

【夏休みの作品勢揃い！！】学校にお越しの際はご覧ください。。

各学年の廊下の掲示板やテーブルは力作揃いです。子ども同士も鑑賞しあっています。

【運動会の練習が始まりました！】

大型テレビの映像とワイヤレスマイクを付けた先生のダンスを一生懸命に見つめ、その後踊り出したのは3.4年生です。私も「レッツダンス！！」とお声がかかったので、次回はジャージに着替え体育館の端でこっそりやってみましょうか…。身体がついていくのでしょうか？？？。

腰をふりふりしながら踊り、玉入れの練習を始めたのは1.2年生です。かわいいポーズをご期待ください。

鼓笛隊の演奏はもちろん、隊形移動があります。初めて参加する4年生も鼓笛曲を一生懸命練習しています。当日をどうぞ楽しみにしていてください。

【学習も集中して頑張っています！！】

３年生になって初めて演奏したリコーダー。もうすっかりリコーダー名人ばかりです。きれいな音色を奏でています。

初めてのミシン学習は５年生。糸を通し針を下ろすのも動かすのも、ワクワクドキドキです。けがをしないかと心配でしたが、ボランティアの方々のおかげで、楽しく安全に授業が進みました。

まつかだな　まっかだな　つたの葉っぱも　まっかだな

敬老の日が来ると思うこと　*～どんな「敬老の日」を過ごされましたか～*

敬老の日は、日本の国民の祝日の一つです。9月の第3月曜日となっています。私が子どもの頃は、毎年９月１５日が敬老の日でした。2001年（平成13年）の祝日法改正いわゆるハッピーマンデー制度の実施によって、2003年（平成15年）からは9月第3月曜日となりました。今年は久しぶりに１５日が敬老の日でした。

敬老の日の趣旨は、「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」ことだそうです。〈国民の祝日に関する法律（祝日法、昭和23年7月20日法律第178号）第2条〉各地域では、敬老の日の前後にこの趣旨を踏まえて、それぞれにお祝いの意を表しているようです。

この日を迎えると、必ずいくつかの言葉(詩)を思います。一つは「**子供叱るな来た道だもの　年寄り笑うな行く道だもの**　来た道　行く道　二人旅　これから通る今日の道　通り直しのできぬ道（妙好人）」です。これは、以前読んだ永六輔氏の著書「大往生」で紹介されていて知りました。特に「子供叱るな来た道だもの」に対して、「年寄り笑うな行く道だもの」と続くフレーズが強く印象に残っています。「年寄り（を）笑う」という表現はとても気になっていますが、人は誰もがこの世に生を受けて生涯を終えるまでの間、子どもから年齢を重ね高齢者へと進んでいく中で、次への命をつなぎ未来を作ることに関わっているのだと思うのです。そして高村光太郎の「道程」とあいだみつをの「道」いう詩。この二つの詩にある「道」には自分自身が切り開くものというメッセージがあります。今の社会は高齢者の方が形あるものに切り開いてきた道に他ならないと思うのです。

毎年こんなことを考えながら、お墓参りをし家族で食事をするのが敬老の日の日課となっています。

道程　　高村光太郎
僕の前に道はない
僕の後ろに道は出来る
ああ、自然よ
父よ
僕を一人立ちにさせた広大な父よ
僕から目を離さないで守る事をせよ
常に父の気魄を僕に充たせよ

道　あいだみつを
道はじぶんで
つくる
道は自分で
ひらく
人がつくったものは
じぶんの道には
ならない

９月２７日は赤麻大運動会です。楽しみに！！